

# 高活協通信(2020年8月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

## ◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

### ■お知らせ

- 新型コロナウイルスが高齢者派遣事業を直撃しているとの情報が、(株)高年社 60 シニアキャリアサポートセンター センター長の木村均様より寄せられました。そのポイントは以下の通りです。
- コロナ禍による経済活動の著しい低下により、高齢者の就業支援は益々困難を極める状況となっている。木村様の会社は静岡県東部の富士市と富士宮市に地域を絞って高齢者就労支援を行っている。この地域には自動車関連部品の製造会社が多くあり、シニアを多数派遣していたが、コロナ禍による減産の為、5月、6月の2ヶ月月間で約20名の派遣終了を通告された。若い人でも、仕事を失い職を求めているなか、高齢者の再就職はますます難しい状況とのことです。
- このような状況の中、今年4月から施行された派遣法改正を受け、木村様の会社では労使協定方式を採用したとのことですが、職種別賃金の最低賃金が、地域の最低賃金よりも上回っていたり、今まで付けていなかった賞与や退職金も付けなければならない等の指導があり、これらを遵守することにより、逆に高齢者が仕事を得られなくなってしまうという事実があるとのことです。
- 以上のような問題を解決するにはどうすれば良いか。例えば、以下のようなことも検討すべきではないか。
  - ・「年齢別最低賃金制の検討」を進めていくべき。高齢者には、個人差があるとはいえ年金がある。若い人と同じような賃金制度を押し付けるのではなく、高齢者であれば最低賃金を安く設定でき、企業が高齢者雇用にメリットを感じられるような「年齢別最低賃金制」を設けるべき。そうすれば、高齢者にも雇用の機会が得られやすくなる。
  - ・若い人より安くてもいいから先ずは仕事に就きたいという思いの高齢者は多い。若い人が高齢者に職を奪われるという意見もあるが、あくまでも高齢者向きの仕事という観点での考えです。
- ご関心のある方はこの問題について一緒に考えていただければ幸いです。

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいておりますが、この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、その時々話題等に関する皆様のご意見などを、配信メールへの返信にてお寄せいただけますと有難く存じます。

### ■2020年7月の主な活動

- 高活協は現在、新型コロナウイルス感染を避けるため、セミナーやシンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を自粛しておりますが、今後は ZOOM 等を利用したオンラインでのイベントなどについて検討していきたいと考えております。

- 2020年7月13日、今年度のオンラインでの「生涯現役の日」関連イベントの開催について打ち合わせるため、「生涯現役の日」交流フォーラム2019の共催団体とZOOM会議を行った。
- 2020年7月20日、同じく第2回目のZOOM会議を行った。

### ◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

---

- 高活協が共同事務局を務める“生涯現役の日”制定・普及委員会が主催するイベントとして、昨年度は“生涯現役の日”交流フォーラム2019を開催しました。
- 今年度は、昨年度開催の上記フォーラムの共催団体が、再度共催で「生涯現役の日」関連イベントをオンラインで開催することを企画しております。
- ① 日時:2020年10月5日(月)午後2時より午後4時
- ②形態:(ZOOM等の)リモート会議システムによるWebセミナー(Webinar)
- \*事前に参加登録を募り、参加者はWeb上で視聴(質問提出可)
- ③プログラム案
- ・メッセージ「Covid-19は私たちの職業生活にどのような影響を与えるか」:清家篤(前慶應義塾大学)
  - ・第一テーマ:健康への影響と展望  
鼎談:鈴木隆雄(問題提起)(桜美林大学)、斎藤正身(霞ヶ関南病院)、宮島俊彦(日薬連)
  - ・第二テーマ:社会生活への影響と展望  
鼎談:秋山弘子(問題提起)(東京大学)、澤岡詩野(ダイヤ高齢社会研究財団)、吉田俊之(NTTデータ経営研究所)

### ◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

---

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

### ◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて - トピックス◆◆◆

---

生涯現役社会は、「健康寿命」、「職業寿命」、「社会活動寿命」、「資産寿命」という4つの寿命が共に伸びる社会、つまり「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

#### ■就労的社会貢献活動に注目

- 70歳までの就業機会の確保のための措置(①定年廃止、②70歳までの定年延長、③70歳までの継続雇用制度、④雇用以外の措置(●70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入、●70歳まで社会貢献活動に継続的に従事できる制度の導入 - のいずれか)を講じることを企業の努力義務とする

高年齢者雇用安定法の一部改正が成立した。

- 選択肢として示されたこれらの措置のうち、④雇用以外の措置の1つ「70歳まで社会貢献活動に継続的に従事できる制度」について、その中身が今一つはっきりしない。
- そんな中、厚生労働省の新たな施策が注目される。その施策は、上記の「70歳まで社会貢献活動に継続的に従事できる制度」に沿ったものとなっているように見える。施策の具体的内容は次項の通りです。

## ■就労的活動の普及に向けて(地域支援事業交付金関係) — 厚生労働省

- 地域支援事業は、高齢者が要介護状態等となることを予防するとともに、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援するもの
- 令和2年度からは、役割がある形で高齢者の社会参加等を促進する観点から、地域支援事業の包括的支援事業(生活支援体制整備事業)において、新たに就労的活動の普及促進策を創設
- 具体的には、就労的活動の場を提供できる団体・組織と就労的活動を実施したい事業者とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートする人材の配置を推進

## ■高齢者雇用の総合誌『エルダー』2020年8月号(2020年8月1日発行)のご紹介

発行:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.or.jp/elderly/data/elder/index.html>

<特集>

特集 新任人事担当者のため的高齢者雇用入門

高年齢者雇用安定法の改正により、企業には来春から従業員の70歳までの就業を見すえた対応が求められることになった。高齢者が70歳まで生き活きと働ける環境を整えるためには、60代後半の働き方について考えていくことはもちろんのこと、これまで以上に60代前半の人事管理制度を整えていくことが必要となるだろう。そこで今回は、「新任人事担当者のため的高齢者雇用入門」と題し、多くの企業でよく見られる高齢者雇用の課題を取り上げた。60代前半の人事管理から、70歳就業を見据えた対応まで、新任人事担当者が基礎から学べる内容となっている。

### 【序論】

「教えて先生、高齢者雇用って何から始めたらいいの？」

千葉経済大学 経済学部 経営学科 准教授 藤波 美帆

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 雇用推進・研究部 及川つかさ

### 【解説】

1. 仕事に身の入らない高齢社員がいるんです！

高千穂大学 経営学部 教授 田口和雄

2. 必要なスキルを身につけてくれませんか！

高千穂大学 経営学部 教授 田口和雄

3. 再雇用した元部長に困っています！

高千穂大学 経営学部 教授 田口和雄

4. 高齢社員が持病の悪化で休みがちに！

## 5. 高齢者雇用を支援する助成金制度

<短期連載>

### マンガで見る高齢者雇用(第4回)

「高齢社員にがんばってもらいたいが、体調や健康も心配」

<連載>

### ○リーダーズトーク(No.63)

定年後、70歳まで再雇用しシニア社員の経験を組織力の向上につなげる

りそなホールディングス執行役 人材サービス部担当 新屋和代さんに聞く

### ○江戸から東京へ 作家 童門冬二(第93回)

密集地域に“汁鍋”のすすめ 水戸黄門

### ○高齢者に聞く 生涯現役で働くとは(第75回)

株式会社平本店 かすが町市場 パート従業員 多田辰男さん(80歳)

### ○高齢者の職場探訪 北から、南から(第98回)

秋田県 株式会社英明工務店

### ○高齢社員の賃金戦略

「高齢社員の活用戦略は『需要サイド型』に」

学習院大学 名誉教授 今野浩一郎

### ○知っておきたい労働法 Q&A(第27回)

健康情報の取扱い、特別休暇の付与

### ○いまさら聞けない人事用語辞典(第3回)

「退職金」

株式会社グローセンパートナー 執行役員・ディレクター 吉岡利之

### ○日本史にみる長寿食(vol.322) 食文化史研究家 永山久夫

オクラのネバネバうまし

### ○短期連載 職場でできるストレッチ体操

加齢による筋力の低下を防ごう！

柔道整復師 山崎由紀也

### ○イキイキ働くための脳力アップトレーニング！(第38回)



配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。  
本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。



また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

---